

正絹羽二重+竹 「至高のマスク」

正絹羽二重、正絹胴裏製造で国内最大手のカブト(鯖江市)は、自社製の正絹羽二重と、竹を使った繊維によるリバーシブルマスク「至高のマスク」を開発した。正絹羽二重は滑らかで肌に優しく、竹を使った繊維は抗菌、防臭などの効果があり、両方の特長を兼ね備えた。

カブト(鯖江)が開発 肌に優しく抗菌効果



カブトが開発した「至高のマスク」。手前が正絹羽二重、奥が竹繊維のリバーシブル仕様

新型コロナウイルスの影響でマスクを着ける生活が続く中、天然素材を使った高級品として12月から販売を始めた。

同社は1894(明治27)年の創業以来、絹織物製造を手掛けてきた。和装需要の低下で絹織物業界が縮小傾向にある中、国内トップシェアを誇る。

縦糸を水でぬらして織る福井独特の製織方法「ぬれよこ」により、極上の正絹羽二重を仕上げる。引っ掛かりがなく肌に優しいのが特長で、至高のマスクの片面は、この生地を使っている。

もう片面の竹を使った繊維は、インフォバンク(福井市)が製造。抗菌や防臭、通気性、静電気が起きにくいといった効果がある。竹100%だと肌触りがいまひとつだが、綿と混紡することで克服した。

縫製は、わしだソーイング(鯖江市)が担い、県内一貫生産を実現した。顔のラインに沿うよう立体的に仕上げ、小顔に見えるという。ゴムはアジャスター付きで長さが調節できる。

カブトの兜美昭社長は「洗うこともでき、不織布マスクで肌を傷める人にぜひ使ってほしい」と話